

平成 2 6 年

第 6 回仙北市議会臨時会

市 政 報 告

仙 北 市

平成26年第6回仙北市議会臨時会を招集したところ、議員の皆様にはご出席を賜り誠にありがとうございます。

はじめに、工事入札に係る予定価格の誤りについてです。

9月22日に入札のあった「旧角館老人福祉センターアスベスト除去工事」について、予定価格を算出した私の間違いで、入札会を10月9日にやり直しました。

全くの単純ミスですが、予定価格の算出にあたり、消費税を加算する際に税率を誤って2回かけてしまいました。関係者の皆様には大変ご迷惑をかけ、申し訳ありませんでした。再発防止のため、予定価格公表前のチェック体制を徹底したいと思います。

次に、御嶽山の噴火を踏まえた秋田駒ヶ岳登山者への対応についてです。

9月27日の11時52分、岐阜県と長野県の県境に位置する御嶽山が噴火し、登山者56人の死亡と7人の行方不明者（10月15日現在）が出る大惨事となっています。皆様には心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

噴火が、行楽シーズンのお昼時であったこと、御嶽山自体は噴火警戒レベルが「1」でほとんど予兆がなかったこと、入山者の確定が困難であったことなど、幾つも惨事に至った要因が言われていますが、自然の力と災害の驚異に為す術もない人間の存在を、改めて認識した衝撃的な自然災害です。

仙北市でも秋田駒ヶ岳・秋田焼山は、ともに現在噴火警戒レベル「1」の山です。同様の災害が起こらない確証など全くなく、直後から職員に対して、注意喚起と対策の立案、実践を指示しました。

現状は、気象庁が毎月発表する火山解説資料、及び旧田沢湖町から続く女岳の地温観測のデータ（年2回）をもとに、両火山の活動状況を分析して避難判断の情報収集を継続しています。また県と連携し、具体的な秋田駒ヶ岳の避難計画を作成中です。

特に今回の教訓から、正確な登山者数を把握することが重要との考えに立ち、関係機関の協力をいただいていた啓発チラシ配布や掲示は既に実施済みです。加えて、例えば登山計画書の作成・提出促進のため、宿泊施設への協力依頼、さらなる山岳施設等への看板の設置、職員のチラシ配りによる啓発、環境省の入山カウンターの活用などを実施しながら、インターネットのホームページを活用した登山計画書の事前登録についても、関係機関と協議を始めています。事前登録はできるだけ簡易な様式とし、このデータを万が一の際には関係機関が共有できる仕組みにしたいと考えています。また、市独自にヘルメットの購入を新年度予算において予定していますが、山小屋の機能強化やシェルターの設置について、県当局へ検討をお願いしたいと考えています。

10月24日には、仙北市遭難対策委員会（市・消防・警察の合同）による山岳での搬送訓練・地図判読訓練を、乳頭山・田代平周辺で実施する予定です。御嶽山の噴火を、仙北市の火山噴火対策の強化につなげる思いで取り組みます。

次に、前回定例会後の主なる事項等をご報告します。

◇市内で発生した事故等について

9月16日の14時55分頃、県発注事業「林道鹿の作線開設工事」現場で、横断暗渠の布設作業をしていた大仙市の男性（59歳）が崩れた土砂に生き埋めになり、搬送先の病院で死亡が確認される事故が発生しました。

また、10月2日の12時10分頃、玉川から森吉へ観光登山に向かった埼玉県熊谷市の男性（74歳）から、警察本部へ救助の連絡がありました。本人からの110番通報であったため、遭難場所の特定で防災ヘリでの迅速な救助活動が実施されました。遭難者にケガはありませんでした。

また、10月8日の15時頃、西木町靱内地内にキノコ採りに来

た秋田市の男性（80歳）が時間になっても戻らないと、一緒に入山した2人より角館警察署へ通報がありました。翌日、警察・消防・消防航空隊・市の20人体制で捜索を行いました。11時13分、上空より捜索していた防災ヘリが心肺停止状態の要救助者を発見し、市立角館病院へ搬送しましたが死亡が確認されています。

また、10月10日の18時40分頃、田沢地内にキノコ採りに出かけた地元男性（83歳）が、時間になっても待ち合わせ場所に戻らないと家族から角館警察署へ通報があり、翌日、警察・消防・消防団・消防航空隊・市の30人体制で捜索をしました。11時50分、上空より捜索していた防災ヘリが、沢で手を振る要救助者を発見し大曲厚生医療センターへ搬送しています。

遭難・登山事故等は、今年度に入って17事案となっています。どうか山に入る際には、山を侮らず、十分な準備と装備を心がけていただきたいと思います。

亡くなられた方々には、心よりお悔やみを申し上げます。

◇秋田県・市町村未来づくり協働プログラムについて

秋田県・市町村未来づくり協働プログラム事業は、県と市町村が地域課題の解決に向け、地域資源を有効に活用しながら、明るい未来を切り開くためのプロジェクトを市町村から募集し、それを市町村と県が協働作業で精査し、集中的な事業実施を図るものです。

本市事業については、昨年度「田沢湖クニマス未来館（仮称）」の整備計画を中心に、田沢湖の自然環境の保全と再生、湖畔周辺の賑わい創造を目的とする事業素案を県に提案し、県及び市の関係部局の担当課長等を構成員とするプロジェクトチームの設置の決定をいただいたところですが、去る10月8日、県庁で第1回目の県・市合同プロジェクトチーム会議が開かれ、事業内容や効果、事業費等も含めた具体的な事業精査を始めています。昨日は田沢湖畔の「思い出の潟分校」で、第2回の会議とクニマス未来館の建設予定地等の視察を行っています。

また、先の9月定例会で補正予算をお認めいただいたクニマス未来

館(仮称)建設予定地の地耐力調査事業については、事業者を決定し、事業の委託をしたところです。同様に補正予算をお認めいただいた田沢湖再生調査事業については、来年度からの本格的な調査研究に向け、来週21日、秋田大学に設置いただいた「田沢湖湖底研究所」の先生方と、田沢湖の水質改善に取り組む県環境管理課の担当者との意見交換・情報共有の場を設けることにしています。

本市事業については、今後、プロジェクトチーム及び各部門ごとのワーキンググループによる精査作業を経て、知事を本部長とする未来づくり本部でプロジェクトが策定されることとなります。県との協働作業と並行し、議会や関係団体等のご意見をお伺いしながら、事業の推進を図ります。

◇仙北市と国立大学法人秋田大学との連携協定について

11月26日、仙北市と秋田大学は、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的に、連携協定を締結することにしました。

連携協定は、「田沢湖再生に係る調査研究・教育活動に関すること」、「教育・文化・芸術の振興に関すること」などを主な事項とし、現在秋田大学と調整を行っています。

◇神代地域運営体のNPO法人化について

10月10日、神代地域運営体が、特定非営利活動促進法によるNPO法人として新たなスタートを切りました。

当地域運営体では、地域の基幹産業である農業による市民所得の向上を目的に、地域特産品開発及び規格外野菜の二次加工品開発のため、加工設備等の充実を図ることとしています。

今後、こうした設備整備やソフト事業には、地域運営体交付金に加え、様々な助成事業を組み入れる予定と伺っていますが、国・県の補助事業の応募要件が、最近では法人格を有していることを条件としている場合も多く、これらに対応できるよう体制を整えた先導的な取り組

みと受け止めています。社会的信用が増す法人化のメリットを活かしながら、当運営体がますます多様で広範な事業を展開されるよう期待しています。

◇雇用状況について

ハローワーク角館管内の8月末現在有効求人倍率は0.68倍で、前年同期の0.58倍と比べ0.1ポイントの増となりました。ただし、全県値は0.89倍で、11ハローワーク管内の中では、下から2番目の状況です。地域的にはまだまだ厳しい状況が続いていることから、今後とも関係機関と連携し雇用施策の充実に努めます。

次に、平成27年3月卒業予定の高校生に対する市内事業所の求人受理状況は、9月末日現在で35事業所114人で、今年3月卒業生に対する最終求人事業所数及び求人数をすでに超えています。積極的な新規採用を検討している事業所が増えていることから、これまでの新規採用に対する足踏み状態からの脱却の兆しと捉えています。また、10月16日には、仙北地域雇用促進連絡協議会（ハローワーク大曲・角館、大仙市、仙北市、美郷町、仙北地域振興局）の主催で、企業の人材確保と生徒の県内就職支援を目的に、仙北地域新規高卒者就職面接会が開催されました。仙北市からは9社の参加をいただきました。地域活性化のためにも一人でも多くの若者が地元就職してくれることを期待しています。

◇26年産米の概算金下落対策について

少子高齢化や食生活の多様化等に伴い、主食用米は全国的に消費が低迷し、過剰在庫となっています。このような中、JA全農あきたでは、9月12日、集荷時に農家に支払う26年産米の概算金を、あきたこまち1等米（60キロ）で8,500円（前年比3,000円安）と発表しました。これは平成22年産の9,000円を下回る過去最低額です。

米価の安値は、農業を基幹産業とする秋田県も仙北市も、地域経

済への影響が極めて大きいものと認識しています。仙北市での影響額は、推計ベースで例年の農業生産額約70億円の10パーセント程度が減少することになります。未だ東日本大震災以降の低迷から脱していない現状下、地域内消費を下支えしてきた農業者の落胆ぶりは、まさに目を覆うばかりです。

先般、秋田県は緊急の救済対策として農家向け無利子融資制度「稲作経営安定緊急対策資金」を創設しました。県と金融機関等が利子助成する議案を9月議会で可決したことから、仙北市としても債務保証に伴う農家負担分（0.5パーセント）全額を支援したいと考えています。

さらに今回の大幅な米価下落は、農家の稲作に対する情熱の減退、再生産意欲の低下、耕作放棄地の増加などを招きかねない、中山間地農業の一大危機と捉えています。今まさに、市として農業の複合化・6次化に向けた具体の手立てを模索している中で、農業者が抱える不安の幾らかでも払拭することができれば、また、主食用米の生産と言う尊い営みを持続して欲しいとの願いも込めて、概算金への独自加算を行い、来春以降の営農活動の一助にさせていただければと考えました。しかし制度設計に十分な時間をかける余裕がなかったことから、まずは作付け面積が最も多く、影響力の高いあきたこまちを対象品種としました。今後さらに情報収集と制度の再構築で、他の品種についても支援を検討したいと考えています。

市の独自加算金は今年度限りが前提です。単価も生産者の皆様にとって満足のゆくものではないことも十分承知していますが、これが今の仙北市の精一杯です。市財政が厳しい折、議会の皆様には、特段のご配慮をよろしくお願いします。

なお、今後とも来年の営農対策、複合作目への誘導等の独自支援策を引き続き検討します。ご理解を重ねてお願いします。

◇市立角館総合病院改築事業について

これまで市立角館総合病院改築事業の入札会が不調となった原因

の精査を行ってきましたが、今回の積算で参考とした刊行物や見積りの単価が実勢単価と開きがあったことや、入札業者が今後の資材高騰及び労務者の確保経費を考慮し積算していることが、不調に至った大きな要因と考えています。

今後は、再入札に向けて準備を進め、市議会の皆様、及び秋田県や関係機関と協議の上、早期の入札実施にこぎ着けたいと考えています。

以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げます。今臨時会で審議をお願いする案件は、報告1件、補正予算1件の計2件です。

慎重審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。